

Title	母親の労働供給の決定要因
Author(s)	中山, 真緒
Citation	大阪大学, 2020, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/77585">https://hdl.handle.net/11094/77585</a>
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉</a> 大阪大学の博士論文について <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈/a〉</a> をご参照ください。

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 論文内容の要旨

氏 名 ( 中山 真緒 )	
論文題名	母親の労働供給の決定要因
論文内容の要旨	
<p>本論文では、第一に母親の就業にとっても重要な影響を与えると考えられる子どもの健康についての分析を行い、次いで保育環境、ジョブマッチングの観点から、母親の労働供給の決定要因を分析する。具体的には、第2章にて出生時の子どもの健康状態が、子どもの発育に与える影響を分析する。第3章、第4章では保育施設の利用可能性が母親の就業に与える影響を分析し、母親の就業を効果的に支援するために、どのような保育サービスが求められているのかを明らかにする。第5章では、就業に関する情報提供が、求職者のジョブサーチに与える影響を分析する。これにより、就職のミスマッチを減らし、雇用の促進を図る一つ的手段として情報提供が有効に機能するのかを検証する。</p> <p>第2章では、出生体重を用いて、出生時の健康状態がその後の発育に与える影響を明らかにする。分析の際には、健康に対する母親の関心といった観察されない属性がもたらす内生性の問題に対処するために、双子の差を利用し、双子で共通している固有効果を落とした推定を行う。分析の結果、双子で共通する固有効果を取り除くと、出生体重が子どもの発育に与える影響は小さく、肥満や入院確率に対しては有意な影響を与えないことが明らかとなる。また、出生体重の影響の大きさは12歳時点までほとんど変わらない。</p> <p>第3章では、認可保育所が母親の就業確率に与える影響を明らかにする。本章では、大阪府在住の母親約1200名に対して行った独自調査を利用することで、個々の母親が直面する現在および過去の就業状態や個人・家族属性に関する情報を含んだマイクロデータではありながらも、同時に居住地の変遷を尋ねることで、実際の保育所の利用状況ではなく潜在的な保育所の利用可能性を捉えた分析を可能にしている。さらに、大阪府から提供された認可保育所のサービスに関する業務データを独自調査と合わせることで、これまで分析が行われてこなかった保育サービスの提供が母親の就業決定に影響を与えるのかを検証している。分析の結果、母親は単に認可保育所を利用できるかどうかだけでなく、認可保育所で提供されるサービスの内容に反応して就業決定を行っていることが明らかとなる。</p> <p>第4章では、認可保育所に加え認可外保育所とそこで提供されるサービスがもたらす就業促進効果を検証する。都市部では認可外保育所の利用は一般的になりつつあるものの、データの制約から認可外保育所の効果を分析した実証研究は乏しい。本章では大阪府より提供された認可外保育所に関する業務データを用いることで、これまで分析対象とならなかった認可外保育所の存在やそこで提供されているサービスを考慮した上で、保育施設の就業促進効果を再検証している。分析の結果、認可外保育所の存在は母親の就業を支えており、さらに認可外保育所における特定の保育サービスの提供が、母親の就業に対して効果的であることが示唆される。</p> <p>第5章では、公的職業支援施設を利用する求職者に対して行った独自調査を用いて、就業に関する情報提供が、求職者のジョブサーチに与える影響を明らかにする。日本の公的職業支援施設における実証研究は非常に貴重であり、ランダム化比較試験の結果に基づき情報提供が求職者のジョブサーチに与える影響を直接みた研究はこれまで存在しない。本章では、情報提供の因果効果を測るために、大阪市にある総合職業支援施設にてランダム化比較試験を実施し、さらに調査を工夫することで、主観的な就業意欲だけでなく、実際の情報収集行動を調べることで、より客観的な求職行動を捉えた。分析の結果、情報提供は求職者の就業意欲を高めるだけでなく、情報を収集するといった実際の求職行動にも影響を与えることが明らかとなる。</p>	

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 ( 中山 真緒 )			
	(職)	氏 名	
論文審査担当者	主 査	教授	小原美紀
	副 査	教授	大竹文雄
	副 査	教授	佐々木勝
<p><b>論文審査の結果の要旨</b></p> <p>【論文内容の要旨】</p> <p>この博士号請求論文は、母親の就業と子供の発育を促進する要因を明らかにしている。第一章では母親の就業や、それと強い相関を持つ子供の幼少期の健康状態に関する先行研究を整理し、本論文の着目点についてまとめている。</p> <p>第二章では、出生体重を用いて、出生時の健康状態がその後の発育に与える影響を明らかにしている。分析の際には、健康に対する母親の関心といった観察されない属性がもたらす内生性の問題の問題に対処するために、双子の差を利用し、双子に共通している母親の固有効果を取り除いた推定を行う。分析の結果、母親の固有効果を取り除くと、出生体重が子どもの発育に与える影響は小さく、肥満や入院確率に対しては有意な影響を与えないことが明らかとなる。一方で、発育体重に与える影響の大きさは12歳時点までほとんど変わらず残り続ける。出生体重の影響が発育に負の影響を与える可能性が指摘される。</p> <p>第三章では、認可保育所が母親の就業確率に与える影響を明らかにしている。分析は、大阪府在住の母親約1200名に対して実施した独自調査に基づき行われた。調査では、母親や家族の特徴だけでなく、居住地を尋ねることで、地域における保育所の利用可能性を捉えた分析を可能にしている。さらに、大阪府から提供された認可保育所のサービスに関する業務データを独自調査と合わせることで、これまで分析が行われてこなかった保育サービスの提供が母親の就業決定に影響を与えるのかを検証している。分析の結果、母親は単に認可保育所を利用できるかどうかだけでなく、認可保育所で提供されるサービスの内容に反応して就業決定を行っていることが明らかとなる。</p> <p>第四章では、認可外保育所の存在に着目し、認可保育所に加えて認可外保育所が利用可能であることにより母親の就業が促進されるかを検証している。加えて、認可外保育所で提供されるサービスは多様であることを利用して、提供されるサービスにより就業促進効果が異なるかを検証している。都市部では認可外保育所の利用は一般的になりつつあるものの、データの制約から認可外保育所の効果を分析した実証研究は乏しい。サービスの中身を分析した研究は皆無である。この論文では、認可外保育所に関する大阪府の業務データを用いることで、保育施設の就業促進効果を再検証している。分析の結果、認可外保育所の存在は母親の就業を支えており、さらに認可外保育所における特定の保育サービスの提供が、母親の就業に対して効果的であることが示唆される。</p> <p>第五章では、大阪府の公的職業支援施設において行った実験データを用いて、就業に関する情報提供が求職者のジョブサーチに与える影響を明らかにしている。日本の公的職業支援施設における調査や実験の実施は稀であり、ランダム化比較試験の結果に基づき情報提供が求職者のジョブサーチに与える影響を直接捉えた研究は日本では存在していない。分析の結果、情報提供は求職者の就業意欲を高めるだけでなく、情報を収集するといった実際の求職行動にも影響を与えることが明らかとなる。公的職業支援施設にてランダム化比較試験を実施したことだけでなく、調査を工夫することで、求職者の就業意欲だけでなく、実際の情報収集行動を捉えた点も学術的貢献である。</p> <p>【審査結果の要旨】</p> <p>中山氏の博士論文は、調査方法や分析方法に工夫を凝らすことで因果効果を抽出しようとする意欲的な研究である。独自調査や公的支援施設での実験の実施、双子の大規模パネルデータや行政データの利用など政策を考える上で重要な実態把握をすることに貢献している。論文の学術的・政策的価値は高く、博士（経済学）に値すると判断される。</p>			